

「ほめること」と「認めること」の違い

樹々もすっかり葉を落とし、落葉が冷たい風に舞う光景は、まさしく師走の到来を感じさせます。11月を振り返ってみると、1日(金)には生徒会立会演説会が実施され、生徒会本部が新体制でスタートしました。また、口丹新人大会では、9運動部活のうち、優勝3部、準優勝4部、府大会では準優勝が2部、近畿大会出場は1部1チームと個人6名という成績(裏面参照ください)をはじめ、色々な場面での生徒たちの活躍を見せてもらいました。

「中学校三年間で一番思い出に残った出来事、印象に残っている行事は何ですか?」毎年、3年生全員を対象とした校長面接で最初にする質問です。多くの人たちが様々な回答をしてくれるのですが、今年の3年生には、共通点があったように思います。

「部活動での最後の大会です。残念な結果に終わったけど、みんながひとつになれたことを実感することができました。」「新しいクラスになり、話したことのない友達と同じ班になり、修学旅行で仲良くなったことです。」「クラスのそれぞれの人が役割を果たして作り上げた文化祭の演劇です。」「優勝できなかったけれど、応援も頑張り、ブロックがひとつになった体育祭です。」

多くの生徒たちの回答は、クラスの友達と様々な経験を通じ、友達の知らなかった一面を知り、様々な困難を仲間とともに、乗り越えてきた充実感や達成感を感じるものでした。

そこには、友達の存在に感謝したり、クラスや部活動などの集団での自分の貢献を伝え、他の人や自分を認める、という共通点があったように思います。

そして、毎年度末、担任の先生方が通知表に記される所見にも共通点を感じました。たとえば「あなたの言葉に励まされた仲間も多いことでしょう。」「君の優しさに救われた友だちも多くいることでしょう。」「あなたの優しい声掛けが、周囲の人の心のより所になっています。」というような言葉です。

以上のふたつの事から、学生時代に心理学の授業で習った心理学の三大巨頭(フロイト:精神分析の創始者、ユング:分析心理学の創始者)の一人である「自己啓発の父」と呼ばれるアドラーを思い出しました。

アドラー心理学は、「幸せに生きるための心理学」と呼ばれ、「ほめること」と「認めること」の違いを次のように述べています。

「ほめること」は、「能力のある上のものが、下のものに行う行為」であり、ほめる人の背後にある目的が「相手を自分の思う通りにコントロールしたい。」という可能性の存在を指摘しています。また、「頑張ったけどうまくいかなかった時に、ほめる言葉をもらえないとがっかりする。」「いつも褒められるけど、本当に自分のことをちゃんと見てくれているのかなと感じる」といったこともあります。

一方、「認めること」は、「結果にかかわらず、相手の努力や行動、プロセスに目を向けること」であり、「対等の関係であり、集団への貢献を実感させること」としてしています。例えば、テストで思ったほど点数が取れなかった時における「今回のテストに向けて、毎日机に向かってその努力は、凄いなと思う。」「といった言葉や、試合でミスをした時「今日の試合で、最後までボールを追いかけたのが凄かったよ。あの気持ちは、チームにとって大きな力だった。」などのように、結果だけではなくその人がどんな努力をしてきたか、どんな気持ちで取り組んだかを見ていたことを伝えることが重要だと述べています。

これは、心からほめたたい時に「ほめてはいけない」ということではありません。背後に「相手を操作する」という目的が透けて見えるときにはすべきではないということでしょう。私たちは「ほめる」ことに意識をおきがちで、特に目に見える結果をほめることが多いように思います。

しかし、「認める」ということの方が相手の心に響きます。そして、相手は「自分の存在をちゃんと認めてもらっている。」と自己有用感(自分が他者に必要とされているという感覚)を感じるのだとアドラーは述べています。つまり、私たちは「ほめ言葉」を「認める言葉」として使うことが大切なのではないでしょうか。

今年もあと残すところ1ヵ月となりました。生徒たちに「ありがとう」「助かった」と、学級や部活動などの共同体への貢献を実感させる「認める言葉掛け」を大切にしたいと思います。ご家庭や地域におかれましても、生徒たちの一年間の頑張りや存在を認めながら、ぜひ自己有用感を持たせる言葉かけを試みてください。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力の程よろしく願いいたします。

運動部各種大会 文化・芸術で好成績

12月10日は 「世界人権デー」です

大会等主な結果

●ロ丹波新人大会

◎ソフトテニス

○女子の部

- ・団体の部 優勝
- ・個人上級の部 優勝 石垣優衣奈・國嶋瑠愛ペア
準優勝 本多華莉愛・小川陽葵ペア
第3位 春畑音絢・奥村灯里ペア
ベスト8 田原咲良・出口真帆ペア
- ・個人初級の部 優勝 奥村美月・水谷愛唯ペア

○男子の部

- ・団体の部 準優勝
- ・個人上級の部 ベスト8 中谷仁紀・横山翔吾ペア
ベスト8 松本侑・山口りょうまペア
ベスト8 楠瀬颯大・疋田和歩ペア
- ・個人初級の部 第3位 三木琉聖・中澤伶王ペア
第3位 田中敦貴・荒谷利玖ペア

◎バスケットボール

- 女子の部 優勝
- 男子の部 準優勝

◎軟式野球 優勝

◎ソフトボール 準優勝

◎剣道

- ・男子個人の部 第3位 井田勘太
第3位 伊藤航輝
- ・女子個人の部 第3位 長田杏奈

◎卓球

- ・女子個人の部 ベスト8 中面 結愛

●ロ丹波中学校総合体育大会駅伝競走の部

- ・男子の部 第6位（京都府大会出場）

●京都府中学校ソフトテニス新人大会

○女子の部

- ・団体の部 準優勝
- ・個人の部 ベスト16 石垣優衣奈・國嶋瑠愛ペア
ベスト16 本多華莉愛・小川陽葵ペア

○男子の部

- ・個人の部 ベスト16 中谷仁紀・横山翔吾ペア

※近畿中学生ソフトテニス選抜インドア大会出場
（12月27、28日滋賀県立長浜バイオ大学ドーム）

●京都府中学校軟式野球秋季大会 準優勝

●京都丹波美術工芸教育展

- ・佳作 久保裕理
中川翠彩
村田凜
野村一世

1948年12月10日、国連総会で採択された「世界人権宣言」。これを受け、日本では毎年12月4日から10日までを「人権週間」としています。情報化やグローバル化が今後さらに進むことが予想される中で、近年はSNSを中心とした誹謗中傷が社会問題となるなど、これまで以上に私たちの人権感覚が試されています。本校では全ての学校教育を通じて正しい人権意識を育てることはもちろん、前・後期と人権学習を実施しています。その一環として本年度も人権メッセージづくりに取り組みました。以下、各学年・PTAから寄せられた優秀作品を紹介します。

【1年生の部】

「発言は キャンセルできない 気をつけて」芳賀 優斗
「言葉でね みんなの心を 晴れにする」芳賀 優斗
「気づこうよ 無理して笑う 友達の色」長田 杏奈
「悪口は 相手の気持ちを 下げるだけ」水津 輝大

【2年生の部】

「涙より 笑顔のあふれる 世の中へ」澤村 理心
「あけないで 人と人との ディスタンス」俣野 暖斗
「苦しみは 目で見えないけれど かくれてる」射場 心咲
「匿名は 中傷していい 盾じゃない」木曾 博也
「ひろげよう みんなの笑顔と 多様性」北澤 董恵

【3年生の部】

「世界越え なくそう心の 境界線」逢坂 実祐
「歩み寄ろう あなたも誰かの 居場所にね」妹尾 紗亜弥
「受け入れる 国籍違えど 幸（さち）同じ」上田 征宗
「手をとって 先の未来を 歩きたい」古川 陽奈子

【PTAの部】

「個々の色 十人十色で あたりまえ」
「広がって いじめじゃなくて 思いやり」
「思いやり みんなで摘み取る 差別の芽」

ご参加・ご協力いただいた PTA 会員の皆様、ありがとうございました。

12月行事予定

- 3日(火) フッ化物洗口
- 9日(月) あいさつ運動
- 10日(火) フッ化物洗口
- 13日(金) 生徒総会
- 17日(火) フッ化物洗口
- 17日(火) 三者面談（～23日）
- 24日(火) 終業式
- 28日(土)～学校の業務を休止する日（～1/4）

